

「外国出生結核患者に関する後方視的検討」に関係する患者さま、ご家族の皆様へ

当院では「外国出生結核患者に関する後方視的検討」との研究を行っています。日本における結核罹患率は低下を続けており 2021 年には人口 10 万対で 9.2 と 10 を切り低まん延国の仲間入りをするところまで来ています。現在の日本の結核疫学における特徴の一つは外国出生の患者さまの増加で、2023 年の 20-29 歳の新規登録結核患者に占める外国出生者の割合は 84.8%に達しています。この研究は、当院における外国出生の結核患者さまの背景について調査を行い、今後の対策につなげることを目的としております。

〔調査の対象となる患者さま〕

2019 年 1 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までに、当院で治療が行われた外国出生の結核患者さまが対象となります。

〔調査方法〕

患者さまのカルテ等の記録をもとに調査いたします。本調査では、患者さまに新たなご負担をおかけすることはありません。

〔患者さまのプライバシーに関して〕

プライバシー・個人情報 は厳重に守られます。お名前、生年月日など患者さまを特定できる情報が外に出ることは決してありません。

ご不明な点がございましたら、以下に示す本調査の研究代表者までお問い合わせください。また、この研究にカルテ情報を利用することをご了解頂けない場合も以下までご連絡ください。ただし研究結果が学会や学術雑誌で発表された後のご連絡には対応できませんのでご了解ください。

〒591-8555 大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構近畿中央呼吸器センター

臨床研究センター 感染症研究部

露口一成

TEL: 072-252-3021, FAX: 072-251-1372

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ臨床試験審査委員会 (IRB) における厳重な審査・承認を受けて実施しています。